

第2章 小学部の取組

I 小学部について

< 児童の様子 >

小学部は、今年度94名の児童が在籍している。学部全体での学習活動を行う機会は少なく、低・中・高学年に分かれてのグループ別学習や、各学年・学級での学習が多くなっている。児童の実態は、認知や生活動作などの面で初期発達の段階である児童から、小学校低学年段階の国語・算数の内容を習得している児童、体調や情緒面の課題を抱える児童など実態も様々であり、在籍児童の約半数が自閉症あるいは自閉的傾向がある。そのため、本研究で取り上げる生活単元学習では、グループ、学年、学級等の実態に応じた学習内容や目標を設定しており、関連する各教科等の内容も多岐に渡っている。

< 2年目の研究 >

2年目は、生活単元学習を研究の対象とし、単元記録表と実態把握表の作成を行った。単元記録表は各学年で年間を通して作成したことで、関連する各教科等の内容を明らかにしたり、目標や学習内容を整理したりすることができた。また、育成を目指す資質・能力の3観点や学習指導要領の内容を意識して学習指導を行うことができた。実態把握表では、学習内容や発達に応じた学習の段階を知り、評価の内容の観点や目標を具体化することにつながった。こうした取組は、3観点や各教科等の内容の視点から目標や学習内容を整理したり、単元の中で児童につけたい力をより明確に意識したりすることにつながったと考える。一方改善点としては、単元記録表を通して明らかになったことの共有や授業への活用に効果的に結びつけること、学習内容や教師の視点が多様で、関連する各教科等の内容が幅広いため、その整理・考察を行うことが挙げられる。また、実態把握表については、小学部独自のものであるため中学部、高等部との系統性を図る必要がある。

< 3年目の研究 >

3年計画の最終年度となる今年は、2年目の成果と課題をうけ、単元記録表と評価表の作成・改善を行い、授業への活用を図った。単元記録表については、年間計画として、3観点に沿って整理した学習内容、関連する各教科等の内容を年度始めに記入し、単元開始前に共通理解を図るようにした。また、単元の終わりにも児童の変容や取組の様子等を記入することで、児童につけたい力や支援・手立ての工夫を次の単元につなげていった。3年目は、関連する各教科等の内容を整理し、学年間で共通しているものや学年独自で取り上げているものを洗い出し、生活単元学習に関連する各教科等の内容の精選を図った。

評価表は、中学部・高等部の作業学習アセスメントシートを参考に作成し系統性を図りつつ、2年目の単元記録表を基に学習内容を洗い出し、小学部の児童の実態や生活単元学習の内容にあった評価表となるように項目の設定を行った。評価表の記入を通し、児童の実態に応じてつけたい力を意識し、授業での手立てや支援の工夫につなげた。

単元記録表や評価表の活用に加え、「主体的・対話的で深い学び」についても意識し、学習の振り返りの充実を図った。児童が「できた」「頑張った」と感じたり、次への学習意欲を抱いたりすることで、深い学びにつなげた。これらの取組を通して、生活単元学習の授業を充実させることで、「すすんで学び、考え、行動する子」という本校が考える「質の高い学び」の姿の実現を目指した。

II 研究の目的

- 生活単元学習の年間計画と単元記録表を作成し、目標、学習内容、各教科等の内容との関連、評価についての整理、検討を行う。
- アセスメントシートを作成し、児童につけたい力について、各教科等の内容との関連や現在の段階を把握する資料とし、児童の実態把握や評価での活用を図る。

III 研究の方法

- 生活単元学習の年間計画と単元記録表の作成
 - ・生活単元学習の授業について、学年ごとの年間計画を作成し、活動内容、3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）、関連する各教科等の内容を記載し、年間を通して取り扱う内容と関連する各教科等の内容の整理、検討を行う。
 - ・各学年で2つの単元について単元記録表を作成し、単元につけたい力、指導計画について記載し、内容についてグループ等で検討、評価をする。
 - ・年間計画と単元記録表に記載した児童の変容や評価を基に授業づくりを行う。
- アセスメントシートによる事例児の評価
 - ・単元記録表を作成した2つの単元について、各担任1名の事例児を設定し、アセスメントシートを作成する。アセスメントシートでは、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点で分類された、生活単元学習でつけたい力について、実態や指導内容、指導の経過と変容について記録する。アセスメントシートを基に指導内容の検討を行い、よりよい指導支援につなげていく。

IV 実践例

1 単元記録表

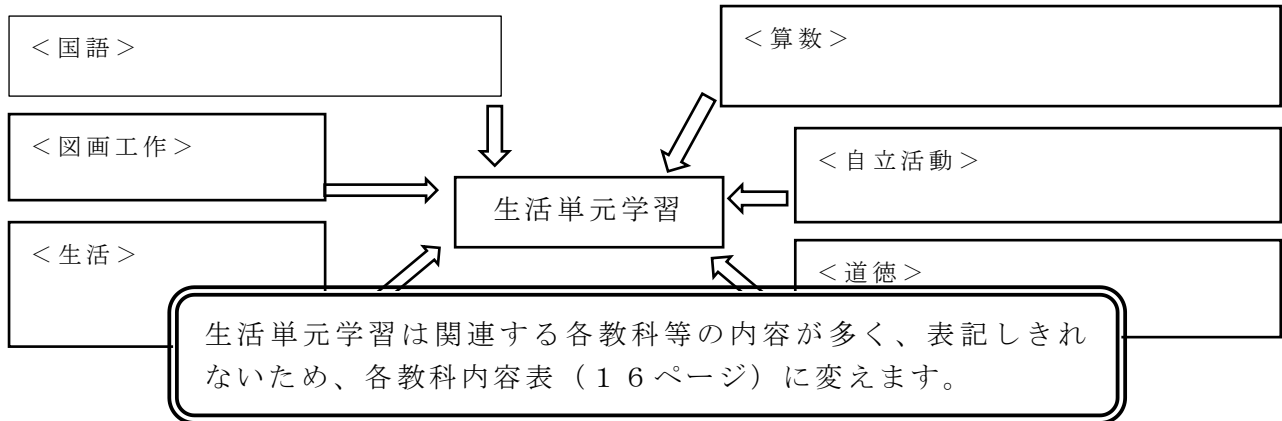
小学部 生活単元学習 単元記録表

| | |
|-------------|--|
| 学校教育目標 | 子どもが豊かに育つ教育 世の中を優しくする学校～夢を・みんなと・笑顔で～ |
| めざす児童生徒像 | ○健康で元気な子 ○夢をかなえようとする子 ○思いやりのある心豊かな子 ○すすんで学び、考え、行動する子 |
| 小学部 学部目標 | ○基本的生活習慣を身につけ、健康で丈夫な体を育てる。 ○学習活動や身の回りのことに主体的に取り組む力を育てる。 ○人や物とのかかわりを豊かにし、自分や回りの人、物を大切にする態度を育てる。 ○生活に必要な知識・技能を身につけ、自分から考え行動したり表現したりする力を育てる。 |



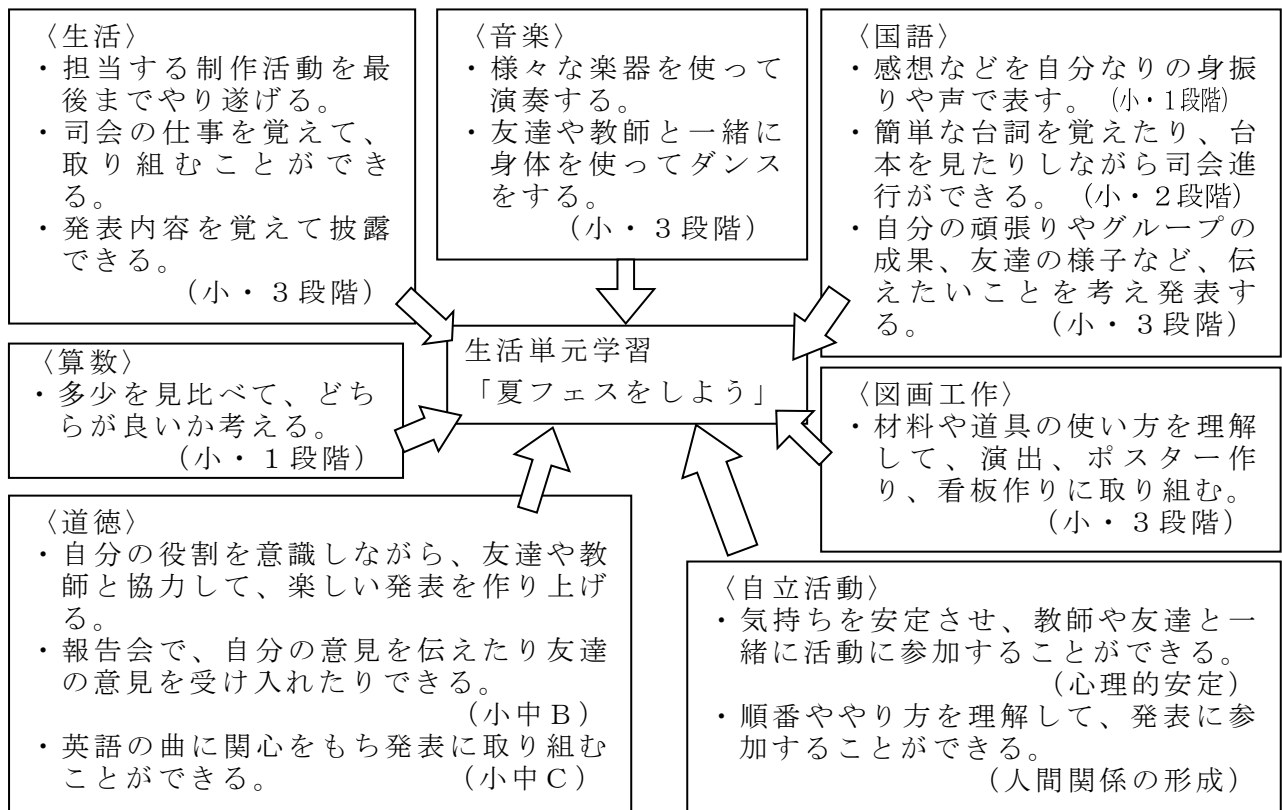
| | |
|----------------|--|
| 生活単元学習 年間目標 | ・様々な経験を通して日常生活に必要な基本的習慣や技能を身につける力を育てる。（知識・技能） ・学習内容や目標を理解し、ルールや手順に沿って行動する力を育てる。（思考・判断・表現） ・身の回りのことや学習内容に興味・関心をもち、感じたことを表現したり、考えて行動したりする力を育てる。（思考・判断・表現） ・教師や友達と一緒に活動する楽しさを知り、意欲的に学習に取り組む力を育てる。（主体的に学習に取り組む態度） |
|----------------|--|

<各教科等の内容（学習指導要領の内容から抜粋）との関わり>



| | |
|------|---|
| 単元名 | 夏フェスをしよう |
| 単元目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・制作では、活動内容を理解して、自分の活動に取り組むことができる。（知・技） ・報告会や振り返りでは、自分の方法で活動の報告や感想を伝えることができる。（思・判・表） ◎お客さんに楽しんでもらえる方法を考えたり、学んだりしながら準備や練習に取り組むことができる。（思・判・表） ・友達と一緒に発表練習や夏フェスに取り組むことができる。（主） |

<単元と各教科等の内容との関わり> ※児童の活動より抜粋、学部・段階は学習指導要領の内容



<「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり>

| | |
|---|---|
| 主体的な学び（興味・関心、見通し） | 対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の関心の高さから単元を設定する。 ・ 午前と午後で学習を分ける。 ・ 日程表を提示する。 ・ 実態に合わせたグループ編成をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達や教師と一緒に同じ発表に取り組む。 ・ 制作では児童が互いに見えるように席を配置する。 ・ 報告会の実施し、友達の活動を評価したり、感想発表したりする場を設ける。 |
| 深い学び（知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り） | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ お客さんがどうしたら楽しんでもくれるか考える場を設定する。 ・ 単元の途中で自分やグループの成果を発表する機会を設け、次の活動への意欲とする。 | |

<学習の内容>

| | 主な学習内容 |
|---------|-------------------------------------|
| 6 / 2 5 | ○導入、グループ決め |
| 2 6 | ○夏フェス準備 |
| 2 7 | 〈午前〉制作（演出、看板作り、ポスター作り） |
| 2 8 | 〈午後〉発表練習 |
| 7 / 1 | ※6 / 2 7、7 / 1：午前は水泳学習のため、午後のみ |
| 2 | ○中間報告会 |
| 3 | ○夏フェス準備 |
| 4 | 〈午前〉制作（演出、看板作り、ポスター作り） |
| 5 | 〈午後〉発表練習 |
| 8 | ※7 / 3、8：午前は水泳学習のため、午後のみ、7 / 5は午前のみ |
| 9 | ○最終報告会 |
| 1 0 | ○リハーサル |
| | ○夏フェス本番 |
| 1 1 | ○夏フェス本番 |
| 1 2 | ○振り返り |

<評価>

○単元の振り返り

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 最初に制作のグループを確認したことで自分の担当が分かり、毎回活動場所に自分から移動することができた。授業の終わりに次回の活動内容を予告することで次の活動が分かり、意欲的に取り組むことができた。主 ・ 報告会では、他のグループと頑張りを共有することで意欲に繋がったり、自分たちの成果を確認したりすることができた。他のグループの制作物を見た児童からアイデアが出て、それを取り入れることができた。作ったものを見せ合ったことで、言葉にして表現できない児童も、頑張りや成果を実感することができたり、友達の頑張りを感じ取ったりすることができた。主 対 深 ・ 振り返りでは、発表を見に来た児童からの「楽しかった」という言葉に、お客さんを楽しませることができたと実感することができた。当日の動画を見たことで、自分の発表を振り返り、自分の頑張ったことをそれぞれ発表することができた。深 ・ 楽しんでもらうことをテーマに取り組み、毎回スローガンを言うことで子どもたちの中で意識しながら準備や練習に取り組むことができた。主 ・ 発表当日は子ども同士で「前を見よう」、「こっちだよ」と声をかけ合うなど、協働学習の姿勢や一体感が生まれた。対 |
|--|

○単元における関連する各教科等の内容の経過・変容

| | 関連する各教科の内容 | 経過・変容 |
|------|--------------------------------------|--|
| 生活 | ・担当する制作活動を最後までやり遂げる。 | ・「お客さんに楽しんでもらえる夏フェスにしよう」の合い言葉のもと、自分の担当する制作活動に責任感をもって最後までやり遂げることができた。 |
| 国語 | ・簡単な台詞を覚えたり台本を手掛かりにしたりしながら司会進行ができる。 | ・個に応じて表記の仕方や文字の大きさを工夫した台本を用意し、繰り返し練習をしたことで、少しずつ大きな声で自分の担当の台詞を表現することができるようになった。本番では自信をもって堂々と司会進行をすることができた。 |
| 算数 | ・多少を見比べて、どちらが良いか考える。 | ・透明なカップを用いて量が分かるようにし、実際に児童の目の前で多い、少ないの2パターンの演出を行うことで量の多少に気付き、比べることができた。どの児童も多少を理解して、自分が良いと思った方を選択することができた。 |
| 図工 | ・材料や道具の使い方を理解して、演出、ポスター作り、看板作りに取り組む。 | ・糊でイラストを貼る際に、塗る箇所が分かるように線を引いた。自分で剥がれている箇所を探して補強するよう言葉を掛けることで、より丁寧に作成することができるようになった。 |
| 自立活動 | ・順番ややり方を理解して、発表に参加することができる。 | ・初めは教師から言葉を掛けられて準備に取りかかっていたが、徐々に自分の順番を理解し、出番が近づくと自分から衣装や道具を用意する様子が見られるようになった。 |

○次単元に向けて

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学年で目標を共有して取り組んだことで生まれた一体感を、今後の単元にも繋げ、より深めていきたい。 ・単元の途中で報告会を行い、振り返りの機会を設けたことで、児童の意見を反映して活動を膨らませることができたり、意欲を更に引き出すことができたりした。次の単元でも取り入れていきたい。 |
|--|

2 学習指導案

小学部 5年 生活単元学習 学習指導案

1 単元名 「夏フェスをしよう」

2 単元について

小学部5年生は、男子7名、女子7名の計14名である。本学年は、多くの児童が言葉によるコミュニケーションをとることができる。数名は不明瞭ではあるが言葉で伝えようとしたり、サインでやりとりしたりすることができる。その日の体調や気分によって活動の量や質に差が出る児童はいるものの、制作活動や運動などに自分から取り組もうとする様子が多くみられる学年である。

小学部の生活単元学習では、以下の点を年間目標として掲げている。

- ① 様々な経験を通して、日常生活に必要な基本的習慣や技能を身につける。
- ② 学習内容や目標を理解し、ルールや手順に沿って行動することができる。
- ③ 身の回りのことや学習内容に興味・関心をもち、感じたことを表現したり、考えて行動したりすることができる。
- ④ 教師や友達と一緒に、活動する楽しさを知り、意欲的に学習に取り組むことができる。

本学年は、曲に合わせて踊ったり歌を口ずさんだりすることが好きな児童が多いため、4年生の時に他学年を招いてクリスマスコンサートを開催した。音楽の授業で取り扱った内容を中心に練習を重ねることで、意欲的に披露することができた。5月には他学年の音楽の発表を参観し、「僕たちもやったね」や「またやりたい」などたくさんの意見が出た。そこで本単元では、昨年度の反省や児童たちの意見をもとに、目標②③④に注目し、発表の場面以外にも児童が作り上げていく夏フェス（音楽発表会）を開催することとなった。その中で、友達と一緒に活動する楽しさや児童が自分たちで発表を作り上げていく達成感、またお客さんが楽しんでくれることで得られる充実感を味わってほしいと考え、本単元を設定した。

本単元は、夏フェスに向けて、制作と発表練習の2つの柱で行っていく。導入から「お客さんに楽しんでもらえる夏フェスにしよう」をテーマに掲げ、共通の意識をもって練習や準備を進めていく。制作は、Ⅰ演出、Ⅱポスター作り、Ⅲ看板作りの3つのグループで行う。演出グループでは、空気砲で舞い上がる紙吹雪の演出に取り組んでいく。目標②③の観点から、空気砲を作る場面では、手順に沿って児童と教師と一緒に協力して取り組んでいけるようにする。演出体験の場面では、児童たちが感じたことを表現しながら、より良い方法について考えたり選んだりする。どちらの活動もテーマを意識した児童の思いを汲み取りながら進めていく。本時は、演出の最後である。実際に本番で使用する紙吹雪の演出を行ったり、お客さんの立場で体験したりする。その中で、より良いと思う内容を選んだり言葉で伝えたりして、お客さんが楽しむためにどうしたらよいか考えていく時間としたい。夏フェス（本番）では、司会進行も児童が協力して取り組んでいくことで、より児童たち自身で作る発表になるのではないかと考える。また、学年の中でも自身の成果を確認したり、各グループの活動を評価したりできるように、制作と発表練習で2回ずつの報告会を設けていく。報告会では、個人やグル

ープの成果とともに、目標③の観点から、他グループの状況を知る機会として、頑張りを認め合ったり、成果を確認したりすることで次の活動への意欲につながるようにしていきたい。単元の最後では、感想発表や活動風景を振り返るだけでなく、夏フェスに来てくれた児童や教師からの「感想ビデオメッセージ」を見ることで、児童の頑張ったことや良かったところがより明確になるように工夫していく。

本単元の取組を通して、友達と協力して取り組み、作り上げたものが、周囲の人を笑顔にしたり、楽しんでもらえたりすることを感じてほしい。また、そこで得られた達成感や充実感が児童の自信となって今後の小学部における様々な活動や、さらには中学部での作業学習の製品作りや販売会への意欲につながっていくことを願っている。

3 単元の目標

- ・制作では、活動内容を理解して、自分の活動に取り組むことができる。（知・技）
- ・報告会や振り返りでは、自分の方法で活動の報告や感想を伝えることができる。

（思・判・表）

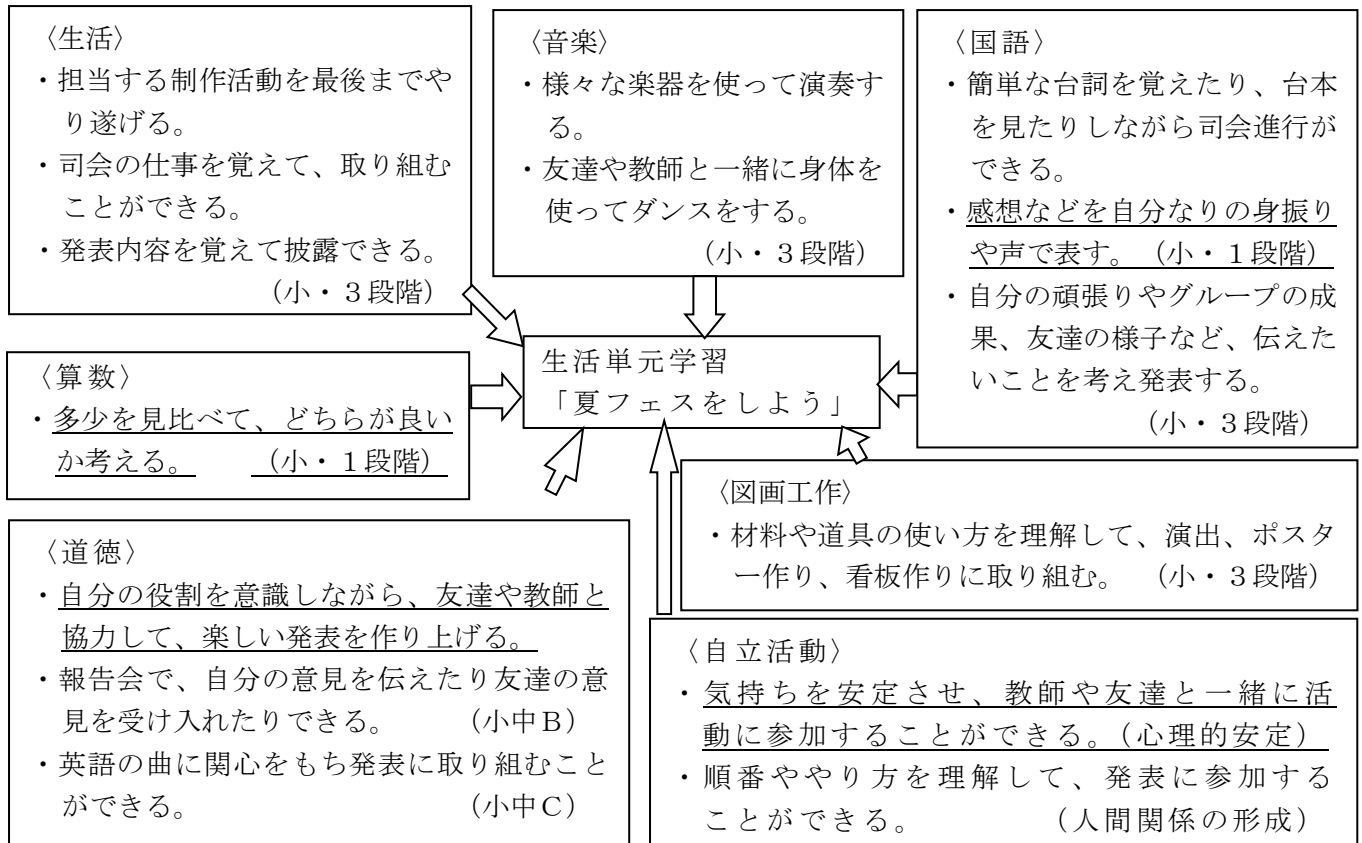
◎お客さんに楽しんでもらえる方法を考えたり、学んだりしながら準備や練習に取り組むことができる。（思・判・表）

- ・友達と一緒に発表練習や夏フェスに取り組むことができる。（主）

4 単元の計画（本時 1 4 時間目 / 2 1 時間）

| 月日 | | 時数 | 活動内容 | | | |
|-------------|---|----|---------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-----------|
| | | | A M | | | |
| 6 / 2 5 | 火 | 1 | 導入 | | | 発表グループ決め |
| 2 6 | 水 | 2 | ○ 演出グループ ・ 空気砲作り | ○ 看板作りグループ ・ 内容決め ・ 文字の色塗り | ○ ポスター作りグループ ・ 文字の色塗り | グループ曲練習 |
| 2 7 | 木 | 1 | | | | |
| 2 8 | 金 | 2 | ○ 演出グループ ・ 空気砲作り | ○ 看板作りグループ ・ 文字の貼り付け ・ 看板の装飾制作 | ○ ポスター作りグループ ・ 文字の色塗り ・ 文字の貼り付け | |
| 7 / 1 | 月 | 1 | | | | ↓ |
| 2 | 火 | 2 | 制作中間報告会 | | | 発表練習中間報告会 |
| 3 | 水 | 1 | | | | 全体曲練習 |
| 4 | 木 | 2 | ○ 演出グループ ・ 空気砲作り | ○ 看板作りグループ ・ 看板の装飾制作 | ○ ポスター作りグループ ・ 装飾の貼り付け | ↓ |
| 本時 5 | 金 | 1 | ○ 演出グループ ・ 演出体験 | ○ 看板作りグループ ・ 装飾の貼り付け | ○ ポスター作りグループ ・ ポスターの掲示 | |
| 8 | 月 | 1 | | | | 発表練習最終報告会 |
| 9 | 火 | 2 | 制作最終報告会 | | | リハーサル |
| 1 0 | 水 | 2 | リハーサル | | | 夏フェス |
| 1 1 | 木 | 1 | | | | 夏フェス |
| 1 2 | 金 | 1 | | | | 振り返り |

5 単元と各教科等の内容との関わり



6 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業づくり

| 主体的な学び（興味・関心、見通し） | 対話的な学び（やりとり、気持ちを伝える） |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心の高さから単元を設定する。 ・午前と午後で学習を分ける。 ・日程表を提示する。 ・実態に合わせたグループ編成をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・友達や教師と一緒に同じ発表に取り組む。 ・制作では児童が互いに見えるように席を配置する。 ・報告会を実施し、友達の活動を評価したり、感想発表したりする場を設ける。 |
| 深い学び（知識を相互に関連づける、自己評価及び振り返り） <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんがどうしたら喜んでくれるか考える場を設定する。 ・単元の途中で自分やグループの成果を発表する機会を設け、次の活動への意欲とする。 | |



<日程表：活動が分かり主体的に取り組むための教材>

<活動ボード：「どうしたらお客さんに喜んでもらえるか」を考える（深い学びのための教材）>

7 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・お客さんに楽しんでもらうために、実際の演出を体験し、どちらの演出が良いか考えたり選んだりすることができる。(思・判・表)

(2) 本時の展開

| 時配 | 学習内容と活動 | 指導・支援上の手立て | 教材・教具 |
|--------|--|--|---------------------------------------|
| 1 | 1 始めの挨拶をする。 ・当番の児童が号令をかける。 | ・始まりが分かりやすいように、サインを付けて挨拶をする。 ・前を向いて挨拶ができるように、全員と目が合っていることを確認してから当番の児童に号令の合図を出す。対 | |
| 3 | 2 日程表を確認しながら、これまでの活動の確認と本時の活動について知る。 ・みんなでテーマを言う。 「お客さんに楽しんでもらえる夏フェスにしよう」 ・活動ボードを見て、本時の活動と頑張ることを知る。 | ・活動が分かりやすいように、これまでの行ったことを一緒に確認し、本時の活動を明確にする。主 ・言うテーマが分かりやすいように、ホワイトボードに掲示しておく。 ・全員がテーマを言うことができるように、簡単なサインをつけておく。 ・本時の活動が分かりやすいように、活動ボードを用意する。主 ・頑張ることを活動中に意識できるように、目標ボードを掲示する。 | 日程表 テーマボード 活動ボード 目標ボード |
| 1 6 | 演出グループ 3 実際に紙吹雪の演出を体験し、紙吹雪を入れる量と色について、それぞれどちらの演出が良いか考える。 (1) 量について考える。 【ア】量が少ない ①やり方を確認する。 ②装置に紙吹雪を入れる。 ③量が少ない演出を行う。 演出係 (B) お客役 (A、C、D) 【イ】量が多い ※①～③は同様に行う。 演出係 (C) お客役 (A、B、D) ・【ア】、【イ】を踏まえて、手をあげたり、指さしたりしてどちらの演出が良 | ・押す位置が分かりやすいように、手の形の印をつけておく。 ・押し方が分かりやすいように、教師が手本を示す。 ・入れる紙吹雪の量が分かりやすいように、カップを用意する。 ・演出の違いが分かりやすいように、体験前に飛ばす量をカップに入れ、提示してから行うようにする。深 ・お客さんの立場で体験することができるように、本番同様に床に座って演出を体験するようにする。深 ・どちらが良いか比較しやすいように、演出の時と同じカップで量を提示する。 | 空気砲 紙吹雪 カップ 活動ボード 顔写真 |

いか選ぶ。

- ・代表者が選ばれた演出のイラストを貼り付ける。



活動ボード：

多少の比較（算数）のための教材

(2) 色について考える。

【ア】単色

- ※①～③は同様に行う。

演出係 (A)

お客役 (B、C、D)

【イ】複数色

- ※①～③は同様に行う。

演出係 (D)

お客役 (A、B、C)

- ・【ア】、【イ】手をあげたり、指さしたりしてどちらの演出が良いか選ぶ。
- ・選ばれた演出のイラストを貼り付ける。

(3) 色と量について、選ばれたものを合わせて体験する。

- ・自分が選んだ物が分かりやすいように、活動ボードに顔写真を貼るようにする。
- ・一人で発表することが難しい場合は、教師が内容を補ったり、発言を代弁したりする。[深]

- ・演出の違いが分かりやすいように、体験前に飛ばす紙吹雪の色見本を提示してから行うようにする。[深]
- ・お客さんの立場で体験することができるように、本番同様に床に座って演出を体験するようにする。[深]

- ・どちらが良いか選びやすいように、色見本を目の前に提示するようにする。
- ・自分が選んだ物が分かりやすいように、活動ボードに顔写真を貼るようにする。

- ・一人で発表することが難しい場合は、教師が内容を補ったり、発言を代弁したりする。[深]
- ・児童が選んだ演出を全員で体験できるように、教師が演出を行う。
- ・お客さんの立場で体験することができるように、全員が床に座って演出を体験するようにする。[深]

3

4 活動の片付けをする。

- ・使った道具を所定の場所に片付ける。(A、B)
- ・床の紙吹雪をほうきで集め、袋に入れる。(C、D)
- ※先に終わったら、もう一方を手伝う。

- ・片付けの位置が分るように、片付け始める前に場所を伝える。
- ・一人でやるのが難しいときは、友達と分担して行う。

ほうき袋

| | | | |
|---|---|--|---------------------------|
| 5 | <p>5 本時の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動ボードを見て、本時の体験の結果、選択した紙吹雪の色と量を答える。 代表者が活動ボードにイラストを貼る。 <p>・本時の頑張ったことを発表する。</p> <div data-bbox="217 667 683 936" data-label="Image"> </div> <p>目標ボード：本時の頑張ることの確認（主体的な学び）と振り返りでの自己評価（深い学び）のための教材</p> | <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動が視覚的に分かりやすいように、活動ボードを提示しながら本時の結果を振り返る。 児童が活動ボードにイラストを貼り直しながら確認できるように、事前にイラストを外しておく。 体験して出た良い意見を再確認できるように、体験時の児童の感想を繰り返したり、気持ちを代弁したりする。 自分の頑張ったことがわかりやすいように、目標ボードを見て選び、顔写真と一緒に掲示する。 | <p>活動ボード</p> <p>目標ボード</p> |
| 1 | <p>6 次回の活動について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日程表を見て確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 次回の活動が分かりやすいように、日程表を提示しながら行うようにする。主 | <p>日程表</p> |
| 1 | <p>7 終わりの挨拶をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 当番の児童が号令をかける。 | <ul style="list-style-type: none"> 終わりが分かりやすいように、サインを付けて挨拶をする。 前を向いて挨拶ができるように、全員と目が合っていることを確認してから当番の児童に号令の合図を出す。対 | |

(3) 評価

- お客さんに楽しんでもらうために、実際の演出を体験し、どのような演出が良いか考えたり選んだりすることができたか。（思・判・表）



<夏フェス当日の様子>



<空気砲を実際に使用する様子>

V 研究の成果と課題

3年間の研究で小学部では単元記録表、実態把握表やアセスメントシートの作成・活用を行ってきた。こうした取組で、関連する各教科等の内容の意識、育成を目指す資質・能力の3観点に基づいた目標の明確化、実態把握による個人の目標や評価、手立ての充実などの成果を得ることができた。学級で一つの単元について記入し、授業に生かすことができたが、小学部全体、低学年・中学年・高学年のグループ内での計画や評価の共有にまでは至らなかった。そのため、作成した資料を共有し、活用することが今後の課題の一つである。1年間の生活単元学習を通して、手順表や日程表を手掛かりに自分で考え活動に取り組む姿や、言葉や身振り、写真カード等、自分なりの手段で思いを表出する姿、更に、小集団での学習や児童同士の関わりの場面を意識したことで、普段見られないような友達と進んで関わる姿等、「すすんで学び、考え、行動する子」という本校の考える「質の高い学び」の姿の実現に迫ることができた。

1 単元記録表

○ 2年目の課題

- ・単元記録表を通して明らかになったことの共有や授業への活用
- ・関連する各教科等の内容の整理、考察



○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

単元記録表について

- ・各教科等の内容との関連、主対的・対話的で深い学びの視点からの授業づくりについて意識し、授業づくりに役立てることができた。単元のねらいや目標、計画についてもより明確にすることができた。
- ・授業の計画やねらいを共通理解できたり、単元の目標を踏まえて自分の担当する児童の目標を立てたりすることができた。グループで話し合うことで、自分では気付けない各教科等の内容の視点にも気付くことができた。
- ・単元の目標についての評価と各教科等の内容の視点からの評価の両方を行うことができた。
- ・「次単元に向けて」の項目を記入することで、児童の取組の様子を踏まえて、より良い姿を引き出すための工夫や更に深めたいこと、次の課題等を挙げることができた。

年間計画について

- ・年間計画で洗い出した各教科等の内容について、学年ごとに各教科等内容表にまとめたことで、どのような各教科等の内容を多く扱っているか、どのようなことを重視しているか等、各学年の特徴を知ることができた。
- ・各教科等内容表について、各学年で検討、考察したところ、自分の学年で大切にしていることや、これまであまり扱っていなかった各教科等の内容の視点や次に取り上げてみたい各教科等の内容の視点に気付くことができた。

< 課題 >

- ・すでに取り組んでいる単元計画と重なる部分も多く記入する項目も多いため、負担感が大きい。また、項目や記入量が多いことで、共有しづらい。
- ・様式が年度途中で変更になったことや作成開始時期が遅くなってしまったことにより、共通理解をする時間が十分にとれなかった。



○課題改善に向けて

- ・「3観点の単元目標」「関連する各教科等の内容」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業づくり」の3つの項目について、より簡潔に記載できるように様式の改善が必要。
- ・授業実践に生かせるよう、記入時期や活用方法を明確にし、共通理解を図る機会をつくる。
- ・学年ごとに年間で1つの単元について作成し、評価や振り返りはそれ以降の単元に生かし、授業改善につなげるようにする。

2 アセスメントシート

○2年目の課題

- ・昨年度の取組を通して、作成・活用を図ってきたが、小学部独自の形態であり、中学部、高等部との系統性を図る必要があるということ。



○3年目の成果と課題

<成果>

- ・中学部、高等部との系統性を図りつつ、小学部の生活単元学習に特化した内容で、アセスメントシートを作成し、9、10月に小学部で設定されていたスマイルフェスタの単元で活用を図った。
- ・実態把握の観点を表記したことで個々の目標を明確にすることができた。
- ・事例児についての実態把握やつきたい力を考察する際の手掛かりとなり、教材や学習環境など手立ての工夫をすることができた。

<課題>

- ・アセスメントシートの作成が負担感や仕事量の増加を招いた。



○課題改善に向けて

- ・アセスメントシートの記入内容の精選や既存の資料との使い分けを明確にする必要がある。
- ・アセスメントシートを簡略化した様式にし、活用を図る。

3 主体的・対話的で深い学びの授業づくり

○ 3年目の成果と課題

< 成果 >

- ・実態をよく把握し、児童に合った手立てを考えることが主体的・対話的で深い学びにつながると知った。また、それらを意識して教師が働きかけることが大切であることが分かった。
- ・児童が学習に主体的に取り組むためには、教師の普段の児童との関わりが授業に反映される。児童の興味関心のある内容を教師が分かり、取り入れることで授業に向かう姿勢が変化した。
- ・日々の関わりの中でも児童が自分で考える時間を設けることや、間をとることを意識するようになった。

< 課題 >

- ・指導案上(本時の展開)では「対」が少なかったが、授業では対話的な学びが多く見られた。「主」・「対」・「深」を明確に分けて書くのは難しい。
- ・主体的・対話的で深い学びができるような授業展開についてアイデアが不足している。
- ・児童同士の対話的な学びが多くあると良い。深い学びに繋がるように、児童全員から意見が出た後のまとめ方や意見が分かれた時の手立ての工夫が必要。
- ・振り返りの大切さを学んだ一方で、どう取り入れたら良いのか学習内容によっては取り入れ方が難しい面があった。
- ・低学年では特に対話的な学びを取り入れることが難しいため、自分の意見を伝える時の具体策、選択肢の工夫が必要。



○ 課題改善に向けて

- ・低学年、中学年、高学年それぞれの段階に合った対話的な学習や振り返りの在り方を充実させることができるように、授業を計画する段階で教師同士の話し合いの場を設ける。
- ・授業実践を共有する場を設ける。